

3. 朝鮮労働党第8回大会における金正恩報告



「国家経済発展5か年戦略」(2016年)を総括し、その失敗を認めた金正恩は、新たな「5か年計画」で人民生活を向上させるための戦略を提示。合わせて、米国の脅威を抑止し、経済活動に集中するための国防計画にも言及した。ミサイル実験などDPRKの軍事力強化はこの計画に従って行われている。一方で金正恩は「新たな朝米関係構築の鍵」は米国の敵視政策撤回だと述べ、米国とのシンガポール共同声明に基づく非核化にも含みを持たせた。

❖朝鮮型社会主義建設を新たな勝利に導く偉大な闘争方針 ——朝鮮労働党第8回大会で行った金正恩委員長の報告 について(抜粋)❖

(前略)

朝鮮中央通信 2021年1月9日

朝鮮半島は、世界最初の核兵器使用国であり戦争覇者である米国によって分断され、DPRKは米国の侵略軍と数十年間直接対峙してきた。朝鮮革命の特殊性と我が国の地政学的特徴は、人民の福利と革命の運命、国家の存立と自主的発展のために、すでに開始した核戦力の構築を中断することなく推進することを要求した。(略)

わが国を狙う敵のハイテク兵器が増大していることを十分に知りながら、自分たちの力を着実に増強することなく時間を浪費することはほど愚かで危険なことではない。(略)

国家の強力な防衛能力は決して外交を妨害するものではなく、外交を正しい方向に進ませ、その成功を保証する強力な手段となることを強調した上で、現実の状況は軍事力の強化に満足することは決してあり得ないということを改めて証明している(略)

地球上に帝国主義が存在し、我が国に対する敵対勢力の侵略戦争の危険が続く限り、我々の革命軍の歴史的使命は決して変えることなく、我々の国防力は新たな発展の軌道に沿って絶えず強化されなければならない。(略)

核技術をより高度に発展させ、より戦術的に使えるように小型化・軽量化する必要がある。それによって、現代戦における作戦任務や攻撃目標に応じた多様な手段で使用できる戦術核兵器を開発し、超大型核弾頭の製造を継続的に推し進めることができるようになる。これにより、核の脅威が必然的に伴う朝鮮半島の様々な軍事的脅威を徹底的に封じ込め、統制し、主体的に処理することができるようになる。

報告はまた、1万5000キロ圏内の戦略目標をきわめて正確に攻撃し全滅させる精度をさらに高めることによって、先制及び報復核攻撃を高度化するという目標を掲げた。そして、極超音速滑空飛行弾頭の短期間での開発と導入、固体燃料エンジン搭載の水中及び陸上発射型の大規模弾道ロケットの開発を予定通り進めること、長距離核攻撃能力を高める上で非常に重要な原子力潜水艦と水中発射型核戦略兵器を保有することが、任務として提示された。

報告はまた、近い将来に、軍事偵察衛星の運用を基にした偵察・情報収集能力を確かなものにし、500km先の前線深部まで正確に偵察できる偵察ドローンなどの偵察手段の開発研究を本格化させる必要性について言及した。

報告は、防衛科学技術を発展させ、より高度な武器と戦闘装備を発明することによって、朝鮮人民軍を従来型から精鋭化したハイテク型へと急速に発展させることが、現在の防衛科学部門が直面している主要任務であると規定した。軍備の知能化、精密化、無人化、高性能化、軽量化を軍需産業の優先目標とし、この目標に向けて研究開発が行われるべきである。（略）

対外政治活動は、我々の革命の発展を妨げる根本的な障害であり、最大の主敵である米国を圧倒し、服従させることに重点を置いて方向づけられるべきである。（略）

我々が最強の戦争抑止力を蓄え、それを絶えず発展させているのは、自分たちを守り、永遠に戦争のない真の平和の時代を切り開くことを目的としている。（略）

報告は、新たな朝米関係構築の鍵は米国がDPRKに対する敵視政策を撤回することにあると明言し、今後も力には力、善意には善意という原則で米国に対するという朝鮮労働党の立場を厳粛に明らかにした。また、報告は、DPRKは責任ある核兵器保有国として、侵略的な敵対勢力が我々に対して核兵器を使用しようとしめない限り、核兵器を乱用しないことを再確認した。（後略）

出典：『朝鮮中央通信』以下のURLから日付により検索。

<http://www.kcna.co.jp/index-e.htm>

翻訳は、朝鮮中央通信の日本語訳を基礎に、同英語訳を参照しながら一部修正した。

アクセス日：2022年2月21日